

緑化だより No.222

令和 7年 12月号



マンリョウ

- 季節の花(ちち(イヌビワ))
- 水生昆虫の話 (コシボソヤンマ)
- 小さな世界こけ(ヤスデゴケの仲間)

- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ひろしま遊学の森

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>



広島県
緑化センター
二次元コード

季節の花

ちち（イヌビワ）

「大君(おおきみ)の 任(ま)けのまにまに 島守に 我が立ち来れば ははそ葉(は)の
母の命(みこと)は み裳(も)の裾(すそ) 摘(つ)み上げ搔(か)き撫で
ちちの実(み)の 父の命(みこと)は 梓(たく)づの 白髭(しらひげ)の上ゆ 涙垂(たり)
嘆きのたばく 鹿子(かこ)じもの ただひとりして 朝戸出(あさとで)の 愛(かな)しき
我(あ)が子 あらたまの 年の緒(を)長く 相(あひ)見ずは 恋しくあるべし 今日(けふ)だにも
言間(ことど)ひせむと……(以下略)

大伴家持の長歌

万葉集 巻 20-4408

これを訳しますと

天皇のご任命のままに防人として家を出たとき ははそ葉の母は着物の裾をつまんで私の頭をなでられた。ちちの実のちちは柔らかい布のような白髭の上に涙を流され嘆いて言われた。「たった一人で朝旅立つ愛しい我が子よ、長い年月、会えなくなるのは恋しいことだろう。今日だけでも語り合おう。」……(以下略)

奈良時代の天平勝宝7年(755年)2月22日 大伴家持 37才の頃の歌です。

ははそ葉は母にかかる言葉で、ちちのみは父にかかる言葉です。

「ははそ」はナラ、クヌギ、の総称です。家持の親子のきずなを木のイメージで歌っています。

「ちち」は、葉や木を傷つけると白い汁が出ることからイヌビワを指しています。今でも三重県(伊賀、伊勢)の方言ではイヌビワをチチノキ、チチバと言います。

イヌビワはクワ科イチジク属の落葉広葉樹ですが、鹿児島県以南では温暖なため冬に落葉しないことがあります。本州(関東以南)から四国、九州、琉球列島の山地や丘陵に自生し韓国(済州島)、台湾にも分布しています。実や枝を傷つけると白い乳汁が出ます。



イヌビワ

雌雄異株で、花は4~5月ですが、花^{かのう}囊という壺状の袋の中にあるため外からは見えません。イヌビワコバチという小さな蜂が花に寄生し、たいへん複雑な過程を経て、秋には直径約2cmの実が熟します。ビワに似た名前ですが、実はむしろイチジクに似ています。

実は小さく、味もそれほどではないのでイヌがついています。(上村)

水生昆虫の話

コシボソヤンマ

近年、地球温暖化の影響なのか春と秋が短くなったように感じられます。落ち葉が川に落ちると、その落ち葉が川の中の水生生物たちの大切な隠れ家となり、またご馳走にもなる。そんな自然の営みに心を寄せてみると、秋の落ち葉もまた愛おしくも思えてくるのではないのでしょうか。

さて、今回も8月に開催した緑化センターの「水生昆虫を探そう」のイベントでとても小さな個体を見つけたヤゴで、9月号でご紹介したミルンヤンマのヤゴと一見すると同じヤゴに見えるけど、ちょっと違う「コシボソヤンマ」のヤゴについてご紹介します。

コシボソヤンマ(トンボ目ヤンマ科)はコシボソヤンマ属で日本にはこの一種が生息しています。その名の通り、成虫は腹部の第3節がキュッとかなり細くくびれているのが特徴の大型のヤンマ

で、北海道から九州、種子島や屋久島などの離島まで広く分布していますが、地域によっては絶滅危惧種に指定されているところもあります。

生息環境は、平地や丘陵地、山間部の樹林が近くにあり木陰の多い流れのある川で、ヤゴは礫と砂泥が混じるような流れの比較的緩やかな場所で川のほとりに生えている植物があるような場所で、流木や水草、水生(抽水)植物の根際などにつかまって生活しています。

ヤゴの期間は1年半から2年程度で、卵の期間が7~8か月と長く、一年目は卵、二年目はヤゴの状態越冬するそうです。

終齢幼虫の体長は40 mm前後。黒褐色の大きなヤゴで、後頭角に角状の突起が横に突き出していて、腹部第4節以降にはっきりした棘があります。

ちなみに写真のヤゴは亜終齢で約35 mm。

このヤゴの最大の特徴は、捕まえると写真のように、まるでシャチホコのように体を反らしてキュッと固まり、そのまま動かなくなってしまう

いわゆる擬死状態になります。この状態のまま川の中をコロコロと転がって敵から逃げるんだそう。ちなみに見た目がよく似ているミレンヤンマのヤゴも、捕まえると直後はキュッと固くなりますが、こんなに反り返ることもなく、すぐに動き出すので、見分けることができます。

緑化センターの小川には、どちらのヤゴも生息していますので、もし見つけたらそんな違いを観察してみると面白いのでお勧めです。(西村)



ゴボンヤンマのヤゴ



ゴボンヤンマの擬死状態

小さな世界 こけ

ヤスデゴケの仲間

タイ類ヤスデゴケ科のコケは、日本には約30種類があり、コケの生育には適さないのではないかとされる、日当りのよい岩の上や樹幹などに生育しています。

ヤスデゴケ科は葉の一部が折れ曲がり、貯水タンクの役目をしているため、岩上や樹幹でも生育できます。茎や葉は、灰緑色や赤褐色で、葉は瓦を重ねたようにつきます。

今回は緑化センター内でもよく見られる2種類を紹介します。

カラヤスデゴケは、街中の公園の樹木にも普通に見られます。

赤褐色で長さは1~2 cm、幅約1 mmで、樹幹や岩に貼りつくように生育しています。表面の葉(背片)は、約0.5 mmと小さく、卵型で全縁の葉が左右交互に重なるようにつきます。雌雄異株で、3~4月頃、雌株の茎の先に孢子体をつけます。

シダレヤスデゴケは、岩の上や樹幹などに見られます。灰緑色~赤褐色の茎は密着せず、垂れ下がるように生育します。

茎の長さは3~5 cmで羽状に枝分かれします。左右に重なってつく表面の葉(背片)の先はやや尖っています。

又、葉には葉脈の様な線が見られますが、これは眼点細胞が列になっているもので、このコケや同属のアオシマヤスデゴケの特徴の一つです。(山根)



カラヤスデゴケ



シダレヤスデゴケ

緑化研修会

- | | |
|--|--|
| ○ 12月 6日(土) 『クリスマスリース作り』
～自然素材でリースを作ろう～
※ 要予約(先着30名)、材料費 800 円 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター
長井 稔 |
| ○ 12月 12日(金) 第9回 ひろしま遊学の森
「四季の移ろい」写真コンテスト公開審査
※ 自由参加 | 10:00～12:00 広島市森林公園 集合
講師：二科会会員
宗岡 泰昭 |
| ○ 12月 13日(土) 『冬のバードウォッチング』
散策しながら野鳥を観察します
※ 自由参加、無料、双眼鏡持参、雨天中止 | 10:00～12:00 管理事務所前 集合
講師：日本鳥類保護連盟
三次地方分会事務局長
衛藤 慎也 |
| ○ 12月 14日(日) 『正月アレンジメントを作ろう』
松や竹を使ってお正月飾りを作ります
※ 要予約(先着 25 作品)、材料費 1,000 円、小学生以上対象 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：デコクレイクラブアカデミー上級講師
モーモーアート代表 小田 みやこ |
| ○ 12月 19日(金) 『常緑広葉樹の見分け方』
常緑広葉樹の枝葉の観察と学習
※ 自由参加、無料、ルーペ持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林植物研究家
埴田 宏 |
| ○ 1月 7日(水) 『春の七草を学ぼう』
※ 自由参加、無料 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：緑花文化士
横山 直江 |
| ○ 1月 24日(土) 『なめこ植菌教室』
～家庭栽培に挑戦しよう～
※ 抽選(HP12/24～1/10)原木 20 本、材料費 800 円 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長 影井 和男 |

♪☆ お知らせ・ご案内 ☆♪

学習展示館は工事のため、ご利用の方にはしばらくの間ご不便をおかけします。

- ・ 年末・年始の休園日は、12月29日(月)～1月3日(土)
レストハウス休業は、12月29日(月)～1月5日(月)
- ・ 合格祈願「やまこうばし」のお守り
管理事務所にて1人1枚、無料

◎ 展示会

場所: レストハウス (ボード展示)

- ・ 第18回 ひろしま遊学の森
こども写生大会 作品展 ～12月14日(日)
- ・ 第9回ひろしま遊学の森
「四季の移ろい」写真コンテスト 作品展
1月4日(日)～1月25日(日)



合格祈願「やまこうばし」のお守り



第18回ひろしま遊学の森
こども写生大会 作品展